

令和 6 年 6 月 9 日現在

機関番号：34304

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00512

研究課題名（和文）第二次世界大戦後のシュルレアリスムにおけるハイチの影響

研究課題名（英文）Haitian influence on Surrealism after World War II

研究代表者

長谷川 晶子（Hasegawa, Akiko）

京都産業大学・外国語学部・准教授

研究者番号：20633291

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、芸術運動シュルレアリスムが、ハイチにおける民間宗教や生活と深く結びついた芸術のあり方にヒントを得て、第二次世界大戦後の活動を展開させたという仮説を証明することである。

シュルレアリストたちがハイチの芸術と宗教をどう受けとめたのかを解明し、ハイチの画家イポリットイポリットの創作活動の詳細を解明した。イポリットや素朴派を「プリミティヴ」として評価するようになったニューヨークの美術界について調査を行い、第二次世界大戦後におけるヨーロッパの芸術の潮流における「原始的なもの」に関する調査を行った。戦後のシュルレアリスム展におけるハイチの影響の射程を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、これまであまり焦点が当てられてこなかったシュルレアリスムの評価したハイチの芸術、世界観や宗教観が、戦後のシュルレアリスム運動の審美的な判断基準、理論に対して与えた影響を明らかにした。本研究を進める過程で、エクトル・イポリットというハイチの画家に関する論文を準備している。これは、フランス本国でもあまり研究が進んでいないハイチ絵画創作を日本語で紹介する初めての試みである。

研究成果の概要（英文）： In this research, I tried to show how Surrealism was influenced by the folk religion and the cultural practices of Haiti.

Results of my investigation : (1) clarifying how Surrealist writers and painters interpreted Haitian art and religion; (2) acquiring detailed insights into the creative pursuits and life of the Haitian painter Hector Hyppolite; (3) investigating the New York art scene's classification of Hecto Hyppolite and the Naive art called 'primitive art'; and (4) examining the reception of 'primitive' elements within the post-World War II European artistic currents; (5) elucidating the extent of Haiti's influence on the exposition Surrealism in 1947.

研究分野：文学、美術史

キーワード：アンドレ・ブルトン エクトル・イポリット シュルレアリスム

## 1. 研究開始当初の背景

第二次世界大戦中・戦後のシュルレアリスムをハイチという視座から再検討する本研究は、最近の学界動向に呼応している。シュルレアリスムは、ヨーロッパで誕生した芸術運動としてはじめて非西洋の文化に触発されながら変容し、発展を遂げていった。その過程は鈴木雅雄・真島一郎編『文化解体の想像力 シュルレアリスムと人類学的思考の近代』(2000年)が明らかにしている。ただし、ハイチと運動との関係については、2010年以降になってようやく詳細を解明する動きが見られるようになったにすぎない。ソフィー・ルクレール『植民地主義の代償、植民地主義のフランスの神話に直面するシュルレアリスム(1919 - 1962)』(2010年)やノルメリア・パリス「ハイチにおいて反抗するシュルレアリスム」(2011年)をはじめ、先行研究はシュルレアリスムがハイチにもたらした政治的な影響を主に考察しており、芸術の関係は論じていない。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、ヨーロッパの芸術運動であるシュルレアリスムが、ハイチにおける民間宗教や人々の生活と深く結びついた芸術のあり方にヒントを得て、第二次世界大戦後の活動を展開させたという仮説を証明することである。シュルレアリスムの理論家アンドレ・ブルトン、作家ピエール・マビュ、画家ヴィフレド・ラムは大戦中にハイチに滞在して民間宗教の儀式に参加し、芸術と宗教が未分化なものとして生活のなかに浸透し、人々の精神構造に影響を及ぼしている様に感銘を受けた。戦後のヨーロッパにおいて、シュルレアリストはハイチで観察した芸術と人々の生活との関係をモデルとして再現することを目指し、またハイチから亡命した芸術家たちを受け入れて、新たな審美観の創造を試みた。このように、ハイチとの交流は戦後のシュルレアリスム運動の変革を可能にしたと考えられる。

## 3. 研究の方法

本研究はシュルレアリスムがハイチの芸術と民間宗教をどのように受容し、利用することで運動の活性化を成し遂げたのか、その実態と影響の範囲をフィールドワークと文献調査によって実証することを目指した。ハイチに関するテキストや造形作品、芸術と宗教の関係を主題にしたテキストや造形作品を検証しながら、戦後のシュルレアリスムにおけるハイチ文化の影響の射程を確定することに努めた。

## 4. 研究成果

本研究の成果は主に以下5つである。

- (1) シュルレアリスムの文学者と画家におけるハイチの芸術と宗教の受容:ハイチを訪れたシュルレアリスムの文学者と画家がハイチの芸術と宗教をどのように受けとめ、どのように理解したのかを解明するために、冒険家ウィリアム・シーブルックや民族学者アンドレ・メトロウをはじめ、ブルトン、マビュ、ラムが参照したと考えられる旅行記や民族誌の研究成果を収集し、調査した。
- (2) ハイチの画家エクトル・イポリットの創作活動や人生の詳細:当初、この謎に包まれたヴードゥー教の画家の活動の全体を明らかにするために、ハイチへの現地調査を実施したいと考えていたが、状況が許さなかった。ハイチは2021年の大統領暗殺事件以来、治安が非常に悪化しており、翌年10月から「レベル4 退避勧告」が出されている状況である。そのため、ハイチでの現地調査は諦め、日本で手に入れることのできる書物を中心に、エクトル・イポリットの創作について調査を行った。*Hector Hyppolite* (édition Capri, 2011), *Mystical Imagination--Hector Hyppolite*(Haitian Art Society, 2012)をはじめとした先行研究を通して、イポリットの創作活動や人生の詳細について確かな情報を得た。同時に、シュルレアリスム運動の理論的指導者であるブルトンのイポリット論の分析によって、この時期のブルトンにとってイポリットが特別な存在であり、ブルトンに新しい世界の見え方を教えてくれる貴重な存在であったことが明らかになった。この成果については論文としてまとめているところである(2024年度内に発表を予定している)。

- (3) **第二次世界大戦中にニューヨークに亡命したシュルレアリストたちの活動に関する調査:**特にニューヨークで活動していたメンバーたちのなかで、いわゆる「素朴派」に対する関心が急激に高まった。その実態について調査を行った。ニューヨークの画商シドニー・ジャニスが与えた影響に加え、ハイチなどで作られる絵画がマーケットに参入したことも軽視できないことがわかった。
- (4) **第二次世界大戦後のヨーロッパの芸術の潮流における「原始的なもの」に関する調査:**第二次世界大戦後のヨーロッパの芸術の潮流における「原始的なもの」「素朴なもの」に関する調査を進めた。特にこの時代、シュルレアリスムとも関係のあった前衛芸術 CoBrA におけるこの関心を明らかにしながら、シュルレアリスムの考えを相対的な視点から再考した。これに関しては「コブラとシュルレアリスム」という題名の論文にまとめている(2023年11月刊行)
- (5) **「1947年のシュルレアリスム」展に関する調査:**第二次世界大戦中に北米や南米に亡命していたシュルレアリストたちが戦後パリに戻った直後に企画した「1947年のシュルレアリスム」展において、彼らがハイチで得た知識をどう活かしたのかを明らかにするため、「1947年のシュルレアリスム」展カタログを精密に調査した。この展覧会は戦後のシュルレアリスムの新機軸「新しい神話」を観客が自分で解釈して創造するように構成されており、イニシエーションにも似た経験を通じて、観客は生活と融合した芸術としてのシュルレアリスムの活動に加わる。この展覧会のカタログの分析を通じて、ヴードゥー教からの影響の射程を明らかにした。この成果は2024年秋に発表を予定している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 進藤久乃、ラファエル・ケニグ、長谷川晶子、他	4. 発行年 2023年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 368
3. 書名 『戦後フランスの前衛たち 言葉とイメージの実験史』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

2023年12月16日、國學院大学渋谷キャンパス5号館 5201教室で開催された『戦後フランスの前衛たち 言葉とイメージの実験史』出版イベントで（13時から18時まで）発表を行った（第一部「第二次世界大戦後の前衛・日仏の前衛」）。
---

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------